

8. オリーブの木の森

元茨木緑地公園の東奈良2丁目にオリーブの木の森が有ります。

香川県小豆島町（旧内海町と姉妹都市提携）

昭和63年(1988年)10月2日、記念にオリーブの木の苗を植えられた。



姉妹都市の小豆島町から

贈られた、苗木が大きく成長し今は森となっています。

旧内海町は平成18年3月21日に旧池田町と合併し、小豆島町へと生まれ変わりました。

小豆島町の歴史

古代から中世の中頃まで、草加部郷と称し、皇室御領として伝領され、細川氏支配や豊臣時代を経て、徳川時代には、主として倉敷代官所に支配されています。片桐且元が豊臣秀頼の重臣として、天正16年(1588年)、前任者小西行長の後任として小豆島を支配し、慶長19(1614年)以後は徳川幕府の代官として、小豆島を管轄下に置いたというえにしもあります。

昭和26年4月1日：西村、草壁、安田、苗羽、坂手を合併し、内海町設置

平成18年3月21日：池田町と合併し、小豆島町誕生した。

「産業」

オリーブや石材の加工産業、醤油、佃煮、そうめん等の食品加工産業が中心となっています。特に、石材加工は江戸時代から大阪城の石垣に使われていることは有名です。

「交通」

専ら船舶による海上交通で、航路の開設された四つの港があります。

坂手港は、大型船が就航する阪神を結ぶ航路の寄港地です。

福田港は、姫路との間にフェリーが運航し、島内の東海岸及び南海岸沿いを走る国道436号線の起点です。

草壁港は、高松と結ぶフェリーが就航し、景勝地寒霞溪や小豆島スカイライン等のドライブウェイに通じる道路の起点

池田港は、高松と結ぶフェリーが就航し、役場の本庁舎がある等、行政の中心となっています

※茨木市民には、「小豆島町宿泊施設利用補助制度」があります。